

第 6 回 南三陸町震災復興計画推進会議

と き 平成26年2月28日(金)

18:00~20:00

ところ 南三陸町役場 2階会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 会 議

(1) 会議の目的・進め方に関する説明

(2) 「企画書骨子」について話し合い・発表

(3) とりまとめ

4 事務連絡

5 閉 会

(資料目次)

- ・ 第5回推進会議結果のまとめ 1 ページ
- ・ 第6回推進会議以降のテーマと進め方 11 ページ

第7回 復興計画推進会議の予定：

日時：平成26年3月26日(水) 18:00~20:00

場所：南三陸町志津川保健センター

議題：推進会議委員による企画提案の発表会/4月以降のテーマと進め方

第5回推進会議結果のまとめ

1月27日(月)に行われた第5回南三陸町復興計画推進会議のグループ討議結果をご報告します。今回は、グループC、グループB、グループAの順に発表がありました。

1. 各グループの討議結果

1) グループCの発表内容(要旨)

<事業の背景・思い、だれのために・なんのために>

- ・南三陸町内にいる被災された方、この地にいる人達、特に高齢者に関しては、**前からグランドゴルフの愛好者が多い町**だった。
- ・しかし、その人達の楽しみ、体を動かす機会が少なくなって、もんもんとした生活になってしまった。それを速やかに**皆で楽しむ機会を作りましょう**、というのが背景である。
- ・また、**高齢化が進む中、団塊の世代の人達も、グランドゴルフが出来る環境があるだけでもその人たちのためになり、世代間交流**ができる。
- ・**離れ離れになった仮設に住んでいる方々の交流もこれをきっかけに深まる**可能性もある。

<事業の内容(誰がどこで何をどのように)>

- ・各地域のゴルフ協会の人達に提案して彼らが動いてくれるように私達がサポートする。
- ・8ホールの大会の場所は無理と思うので、**町内に練習する場所を確保**願いたい。
- ・町内に1つあると、大森や旭ヶ丘、志津川中学校の仮設などから人達が下りてきて、そこで集まってグランドゴルフをしながら交流を深める事ができる。
- ・**仮設住宅ごとに練習コース50mを1本、仮設住宅のエリアに1本でも打ちっぱなしが出来る所があればいい**、という案も出た。
- ・概算費用は、1コース(8ホール)と道具類のセットで5、6万円。**町にはグランドゴルフができる場所**、そこで休めるような場所を作って頂ければ管理運営は協会の方でやれる。
- ・なるべく早く、今提案してすぐ動き、**今度の3月11日にマスメディアを使ってPR**する。

<期待する効果や課題>

- ・健康増進に役に立つしコミュニティ活性化にもなるので、メーカーに頼めば寄付も出てくるのではないかと。将来的にはスポンサー冠大会や町長盃とかいろんな形で大会が出来る。
- ・今はグランドゴルフの世界大会がないので、**南三陸の世界大会というの掲げればすごいことになる**。それには、大会が出来るようなスペースがあって、前段階として町民の多くの人達がグランドゴルフ楽しめますよという流れが欲しい。
- ・課題は場所。復興事業が町の中でやっている最中でどこもかしこも危ないよといわれれば、それまでだが、なんとか見つけていただきたい。**練習場所は仮設住宅でもいいし、この時期は工事が入るから工事がおわった所に移動**、というに点々としてもいい。

<自ら行うこと・外の力を借りたいこと>

- ・各地区のグランドゴルフ協会をもう一回まとめ、自分たちがサポートする。
- ・町や外の力については、**場所の確保を町に**願います。工事も含めた人達との連携やスポーツメーカーへ用具の支援を期待したい。

○具体化シート（まとめ）

第5回推進会議：項目の具体化シート

グループ： C

企 画 名		グラウンドゴルフ
事業の背景・思い		<ul style="list-style-type: none"> ・今までの愛好家がGGをやれる機会が必要 ・住民交流の場、住民が元気になれる様にする ・住民の交流を直接的にはかる方法として一番良い(先ず遊びから)(頭をからっぽにする) ・震災前に盛んだったGGをやる事で、かつてのにぎわいを思い出させる
事業の目的	なんのために	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ→総合イベント 総合イベント→グラウンドゴルフにシフト ・スポーツ人口、震災前歌津で100～200人
	だれのために	
事業の内容	だれがどこで何をどのように	<ul style="list-style-type: none"> ・GG協会が軸となって推進する ・50m×30mのコースが確保できれば標準コースが出来る ・仮設毎にショートホールを作って練習する。 波及させるためには専用のコースを確保していきたい ・住民の住まいの近くに練習場があるのが望ましい。(日々の練習場所)さんさんの駐車場など多機能利用出来る様に整備する ・泊浜半島にある既設施設を借りる(道具なども無料貸出) 恒久的施設、松原公園(八幡川右岸)
	概算費用	<ul style="list-style-type: none"> ・道具1セット：5万円程度(スポーツ用品メーカーからの寄贈希望) ・イメージアップ経費→住民交流の場、大会試合場
	いつから	H26年4月～ (練習→小：チーム試合→大会)
結果どうなる(期待する効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進、コミュニティ活性化 (スポーツ用品メーカーが参入するとPR効果がある)
事業実施上の課題は？		<ul style="list-style-type: none"> ・場所の選定、標準8ホール(50m×30m)×2面 ・運営の課題→スポンサー←優勝賞品 ・スコアをつける人の育成 ・試合の課題：協会の人HC(ハンディキャップ)をどうするか
皆さん自らが行うこと	中心となる人	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議のメンバー ・GG(グラウンドゴルフ)協会
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅の住民を中心とした方々
町や外の力を借りたいこと	町や関係組織	<ul style="list-style-type: none"> ・町(場所の提供)
	町内の団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・工事担当JVに暫定コースの貸与、復興協力
	町外の企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ用品メーカーなどに復興協力

2) グループBの発表内容（要旨）

<事業の背景・思い、だれのために・なんのために>

- 企画名は**南三陸スポーツパーク**で、Cグループ同様、**体を動かす場所がなく、動かす所がほしい、という所から命名**した。
- 一つのことだけでなく、**スポーツ、食事、体験、いろんなことが出来るスペースをつくりたい**。なので、全部のテーマを盛り込んだ形にしていきたいという意見だった。
- **今広い場所がない、いろんなことが出来る場所がないのが共通の悩み**となっている。以前は松原公園などで、子供が遊んでいる横で、おじいちゃん、おばあちゃんがグランドゴルフをしていたが、今はそのような場所がない。
- **将来的には公園ができ区画整理が進んでまちづくりが進むと思うが、それまでの間、子供とおじいちゃん、おばあちゃんとの繋がり、人と人との繋がりの方をつくり、時間を途切れなくつないで行く必要がある**。
- 具体的には**ベイサイドアリーナのアウトドア版**ができるといい。
- **事業の目的は「健康」と「人と人の繋がりづくり」と**考えている。
- 町民全員、子供からお年寄りまで皆が楽しめる場所がいい。

<事業の内容（誰がどこで何をどのように）>

- **サイクリングが出来るスペース**がほしい。体力に応じ、子供が手軽にいける所、ママチャリが使える所、レーサーも走れるスペースもほしい。
- **グランドゴルフ、ランニング**についても、平地を走るコース、山の上を走るコースもあってもいい。
- **バスケット**も屋内だけでなく、外でやれるようなスペースもとってみてはどうかという意見もある。年末に仙台の89が来て試合をしてかなりの方が見ており関心が高い。
- **スポーツ全般に加えて食事が出来る、走っている人の横でバーベキューやイモ煮が出来る場所**があるといい。ゾーン別に使い分けて、いろんなことができるものとしたい。
- **学習体験のスペースをつくり、小学生に来てもらいお年寄りに文化や歴史を伝えてもらう**。
- 具体的な費用の話はなかったが、**町民は無料で、町外から来た方は有料**にする。もともと町民で町外に行った人は**町内に戻って来たら無料**にする、ということでもよい。
- **維持管理をしながらお金をかけずに楽しめる。そして、施設が機能するのがいい**。

<期待する効果や課題>

- **健康につながる、皆が集まる、皆が楽しめる場所ができる。町内にいて町外に行った方も気楽に戻ってこられる場所ができることだ**と思う。

<自ら行うこと・外の力を借りたいこと>

- 町には、グループAのように**暫定のスペース**でよいのでその確保をお願いする。
- (外への支援) **体育協会や指定管理者などに管理**をお願いする。
- **力を借りたいところは、長く滞在してほしいというところで、大きな宿泊施設や民宿**。そことタイアップして、スポーツの後、夜はおいしい食事を食べ、いろんなことが楽しめ、皆で分かちあえる場所を作ろうという考えである。

○具体化シート（まとめ）

第5回推進会議：項目の具体化シート

グループ： B

企 画 名		南三陸スポーツパーク
事業の背景・思い		<ul style="list-style-type: none"> ・老若男女だれもが楽しめる ・広い場所がない ・つなぐ、人、時間 ・アリーナのアウトドア版のスペース
事業の目的	なんのために	<ul style="list-style-type: none"> ・健康
	だれのために	<ul style="list-style-type: none"> ・町民全体
事業の内容	だれがどこで何をどのように	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング(体力に応じた) ・スポーツ全般 ・ランニング ・体験学習スペース(教育の日) ・BBQ、芋煮ゾーン ・ゾーン別に使い分け ・芝生の広場 ・グラウンドゴルフ ・バスケ(屋外) ・町内を走っていけるルート
	概算費用	<ul style="list-style-type: none"> ・町民無料、町外有料 ・維持管理しながら楽しめる
	いつから	
結果どうなる（期待する効果）		<ul style="list-style-type: none"> ・健康につながる ・みんなが集まる、楽しめる ・町外の人々が来られる場所
事業実施上の課題は？		<ul style="list-style-type: none"> ・場所がない ・暫定的でもスペース確保 ・指定管理(行政)
皆さん自らが行うこと	中心となる人	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会
	参加者	
町や外の力を借りたいこと	町や関係組織	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設とタイアップ
	町内の団体等	
	町外の企業等	

3) グループAの発表内容(要旨①)

<事業の背景・思い、だれのために・なんのために>

- ・テーマは南三陸椿の物語。背景は、大津波に負けなかったたくましい椿に「根っこが大事」との生き方を習うこと。鎮魂の花である椿を真ん中に置き、種から始めるまちづくりをしたいという思い。
- ・森の再生、避難路椿を生かして、目印に、支援者のお返しとしても、活動の中で椿を生かす。椿文化を見直して発信する。

<事業の内容(誰がどこでどのように)>

- ・種から始めるので、子供達や大人、町外の人、多方面の人がかかわれる。
- ・場所は、学校、有志のグループ、交流イベント。
- ・椿をまちづくりに生かしている町との交流を通して交流人口を増やす事も出来る。
- ・何をするかと言ったら、物語を皆さんにお知らせするために、お茶っこを開催する中で、椿の思い出を掘り出していくという所から始めたい。
- ・季節になったら椿の種を拾い、ポット苗にして育てる。仮設の暮らしが長いので、そこのお母さん方おじいさん方に、拾った種を植えることでまちづくりに参加して頂く。
- ・食事もあるが、まずは物語を広めるという事に十分時間を使っていきたい。
- ・「ゆるキャラ」グッズを作る場や椿を共通語にして編み物や縫い物などの場で、椿を少しずつ広げ、皆さんの心の中に椿がどんどん浸透してくれればいい。
- ・3月の鎮魂の月に川に行って皆で椿の花を誰かの事を思いながら流す。
- ・伊豆大島でやっている椿のてんぷらなどを参考にこの町でも出来る事をやってみよう。
- ・概算費用は、事務局が年に50万円と書いたが、始めはあまりかからないと思う。
- ・植樹は梅雨の入梅の前ごろだし、椿の種は秋にしか落ちないので、その季節に合わせて人が動くという事でいいと思う。
- ・自然の移り変わりにあわせ、皆でやることを進めていければいい。

<期待する効果や課題>

- ・低地部の森の再生、学び合い、交流人口が増える、物語が普及することによって町民に役目が与えられ、役を持った町民は町の一員となって、よりこの町の自覚が高まる。

<自ら行うこと・外の力を借りたいこと>

- ・中心となる人は椿を愛する、有志を募って、そこから初めて、子供達からお年寄りまで参加する。町や関係組織には小学校の学習の取り組みとして、学校との連携でやってみよう。
- ・南三陸の学校だけでなく、町外の学校でこの町と縁がある学校の皆さんとも出来る。
- ・里親制度として種を送って何処かの町でこの町に植える椿の苗を育ててもらおう寄金とかも出来るし里親の仕組みも作れる。

○具体化シート（まとめ）

第5回推進会議：項目の具体化シート

グループ： A

企 画 名		森里海に椿さけ 南三陸(復興)ものがたり
事業の背景・思い		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大津波の塩害で多くの杉等が立ち枯れしたが、その中で椿はいつもと変わらず、見事な花を咲かせ、震災で絶望の中にいた人々を和ませた。 ・ 根っこが大事と教えてもらった ・ 鎮魂の花を真ん中に置いて町を再生したい。種から始めるまちづくり
事業の目的	なんのために	<p><森の再生（「森を街に 街を森に」）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幸せな暮らしがあった街、多くの命が奪われた街を震災復興祈念公園として整備し、その中に震災の記憶を永遠にとどめる椿の森を創り、これから生まれてくる子どもたちに、「街を森に」した私たちの思いを伝えていく。 ・ 避難路に活かし目印にする。 ・ 支援者への恩返しの活動としても椿を活かす。 ・ 椿文化を見直し発信する。 ・ 産業に結びつけていく。
	だれのために	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちからお年寄りまでみんなが参画できるまちづくりのひとつとして
事業の内容	だれがどこで何をどのように	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椿守さんの登録など カード発行、リストアップ ・ (だれが)子供たち、大人、町外の人など多方面の人 (どこで)学校で、有志グループで、交流イベントで(椿の名所廻りツアーなども) (何をどのように)椿のたねっこ拾い、植樹、学び、ポット苗づくり、ゆるキャラでグッツ、他にも春の追悼、椿ながし、てんぷら、椿油など
	概算費用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成長に合わせた取り組み 人もいっしょに成長する ・ 50万/年 植樹関連、しほり代など
	いつから	<ul style="list-style-type: none"> ・ H26年6月スタート、H26年10月椿の種拾い
結果どうなる（期待する効果）		<p><低地部の森の再生></p> <p><学び合い、交流人口の増加></p> <p>中心市街地を椿等の森にした私たちの思いを千年後の子どもたちに伝えていく。そして、自分たちの命を自分たちで守れるようにしてほしい。もう二度と、津波による犠牲者を1人も出さないように、椿等の森で、尊い教訓を伝えていく。</p>
皆さん自らが行うこと	中心となる人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民有志 ・ 椿
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供達からお年寄りまでそれぞれに役割を持つ
町や外の力を借りたいこと	町や関係組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の総合学習の題材として ・ わらすこ探検隊
	町内の団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椿基金 ・ 椿の里親制度 ・ 苗木育成の土地 ・ 無償貸与と土地の紹介
	町外の企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆるキャラの利用(商店街) ・ 町外の学校

3) グループAの発表内容（要旨②）

<事業の背景・思い、だれのために・なんのために>

- ・テーマはさけ的人材育成。冬の川を上る鮭姿はこの町の風景だったが、震災後はバス通学で子供達はその作業、川を上る鮭の姿を見ないでこの冬が終わってしまう。
- ・それがもったいなく町に流れる命と命の繋がりを学ぶ川を人間形成に生かしたい。
- ・鮭のようにたくましい人間を育てる人材育成の取組として意識する。
- ・もう1つは鮭自体の生態を通して町を知る。
- ・また戻って来たくなくなるような町を作らないといけない思いがある。一回出て行くが「強くたくましくなって帰って来て」というメッセージを送る。

<事業の内容（誰がどこでどのように）>

- ・子供達が総合学習の取り組みとして、1年生からでも鮭と川が学びの中に入っているというのが重要。小さい時の子供達の記憶に鮭が残る川を入れてあげたい。
- ・鮭が喜ぶ美しい海と森、川がないといけないので川掃除、森に山に木を植えるのも出来る。川掃除だけだと魅力がないので、川の観察をしながらの川掃除。季節ごとにすれば、その春夏秋冬ごとの川の表情と河川管理が出来る。
- ・鮭マラソン。鮭は川から下って海に行って又川を上るのでこのルートを皆で走る。
- ・鮭にはイクラがついてくるので、鮭とイクラの親子教室で、冠を付けると意識する。
- ・「鮭とば」作り。捨てたりしないで、とばを作って酒のつまみにする。
- ・西宮神社を走る福男のように、例えば新井田川を上って東山の西宮を走って行って、今年の鮭男を決めて、1位の人には1本鮭あげる。
- ・鮭に詳しい人を鮭先生に登録し、小学校で授業をする。町外との繋がりもできる。
- ・春からでも川掃除、観察会は春の表情、夏の表情がある。魚の表情を見るっていう事は春からでも出来、命の繋がりを学べる。
- ・これから堤防や防潮堤が出来て、環境によっては鮭が戻ってこない川になってしまうかもしれないので、また帰って来たくなくなる川を作らなければいけない。

<期待する効果や課題>

- ・この取り組みを通してこの町の魅力を人に伝える事ができる。どの位この町がいいか、人にいえるかどうか大事だと思うので活動を通して町を自慢できる子供が育つ。
- ・食育は今大変な事になっている食育。魚の解剖も通して命のありがたさを知る。
- ・事業上の課題はどう広げて持続していけるかということで、持続していく工夫をやっていく中で毎回考えて行く。

<自ら行うこと・外の力を借りたいこと>

- ・中心となるのは、河川の事を守りたい町民、有志、ネイチャーセンターと共に前浜を守って河川を守ってという取り組みを、民間が協力してやっていけばいいと思う。
- ・南三陸町は、森、里、海が連携するすごくコンパクトな美しい町。
- ・椿は森を考えて、鮭は海、川を考えるので、森里海に椿鮭で、南三陸町の復興計画の自然と共生する町づくりの具体的な行動として町民が主体性をもって楽しくやっていけたらよい。

○具体化シート（まとめ）

第5回推進会議：項目の具体化シート

グループ： A

企 画 名		鮭的人材育成
事業の背景・思い		<ul style="list-style-type: none"> ・冬の海を昇る鮭の姿はこの町原風景 ・いのちのつながりを学べる川。人間形成に活かしたい
事業の目的	なんのために	<p><人材育成。鮭のように逞しい人間を育てる取り組みのため></p> <p>大津波により、町外の仮設住宅に暮らしている子どもたちは、南三陸のニオイ（文化・暮らし・遊び・人々）を覚えていない。南三陸に戻りたくるように、遊びやイベントを通して、イクラ（子どもたち）を南三陸に戻るサケ（大人）に育てていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮭の生態を通して故郷を知る ・また戻って来たくする町をつくる ・この町ならではの発想で川の環境を意識することで水産業向上にもつなげる ・持続可能な社会づくりの取り組みや人口流出に立ち向かう新しい視点として
	だれのために	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちから大人まで(町内外)
事業の内容	だれがどこで何をどのように	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが統合学習の共通の取り組み(1～6年) ・鮭がよるこぶシリーズ(森づくり、川づくり)河川管理 ・鮭マラソン(森→海→森へ) ・鮭といくらの親子教室 ・鮭とぼづくりPJ ・咲け！鮭まつり ・鮭のうた ・鮭の絵コンテスト ・鮭男(福男) ・いくらちゃんの大冒険 ・鮭すごろく大会 ・鮭ずもう大会 ・いくらちゃんを探せ！ ・鮭先生登録 ・町外の川のつながりの人達と
	概算費用	<ul style="list-style-type: none"> ・？
	いつから	<ul style="list-style-type: none"> ・H26.4～ 観察会と河川掃除は春からできる！
結果どうなる(期待する効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・いのちのつながりを学べる、死生観 ・町の魅力を人に伝えることができる ・食育！ ・河川管理に主体性がうまれる ・いのちのつながりを守る
事業実施上の課題は？		<ul style="list-style-type: none"> ・継続してゆけるか ・どう拡げてゆけるか ・ネットワークづくり
皆さん自らが行うこと	中心となる人	<ul style="list-style-type: none"> ・町民有志(かもめの虹色)月2回で話し合ってきた
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・町民有志&ネイチャーセンター、友の会など
町や外の力を借りたいこと	町や関係組織	
	町内の団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校(中学校) ・ネイチャーセンター(産業振興課)

2. 学識者委員・有識者委員の講評ととりまとめ

1) 平野副委員長

- ・平泉町の中学校の改築の際、敷地の関係で旧校舎のすぐ隣に新校舎を建てざるを得ない時に、ワークショップをやって、工事中の騒音や振動の多い所で子供達がネガティブにならずにポジティブに学習することや新しい学校の事を考えて未来志向のスタンスで検討した。
- ・南三陸も町中が工事現場になるが、その中で、どうやって皆さん楽しく前向きになって、この何年かを生きて行くのか、というアイデアがよく出ていた。
- ・BとCグループはうまく連動して、ネガティブをポジティブに変えて行くことが必要だと思う。
- ・Aグループは子供と大人の未来志向で椿の町づくりをするというアイデアである。復興工事が終わった後を見据え、(地域づくりを)きちんとやって行く必要があることを痛感した。
- ・平成27～29年に町中が工事現場になる中で、このアイデアを是非実現していきましょう。

2) 三浦先生

- ・地域の方々がばらばらに生活をしている中で、地域コミュニティの復活と新たなコミュニティの形を形成することが一番の魅力と思う。
- ・スポーツ、文化、自然、歴史などでコミュニティを活性化できるような形で取り組みをすると良い。
- ・お年寄りの今まで培った経験と知恵を使ってもらい、先生になって頂いて、子供達に教えてあげるというようサイクルも必要と思う。
- ・お年寄りに、「人生の中でのいろんな体験を何でもいいからしゃべって下さい」、という話をしてそれを後世にビデオで残す取組みをしている地域がある。お年寄りの知恵を風化させないように、どんどん活用、利用して、将来、南三陸町コミュニティのいい形として残っていくとよい。

3) 稲葉先生

- ・グループBはスポーツパークという大きな枠の話がでて、グループCは具体的にグランドゴルフをやりましょう、という話をつめられたのがよかったと思っている。
- ・復興国立公園に指定された種差海岸に行くと、海岸通りを歩くことも出来るし、そのまま突き進んで行くと、最後にすばらしい天然の素晴らしい芝生が出てくる。歌津から志津川を抜けて戸倉の方に行く道を種差海岸の道路に対比させて考えていた。
- ・種差海岸は歩くだけではなく、何ヶ所かお休み処があって、青森で3本の指に入るおいしいソフトクリームが売っているといわれる店があり、賑わっていた。
- ・南三陸でもお休み処があって、そこに行ったら「たらすもず」が食べられる、というのも良い。
- ・グループAの椿物語は美しく、もう1つの鮭的人材育成はすぐ出来ることだ、と思っている。鮭男などを象徴にして、鮭々いっていると頭の中に鮭が出てきてそういう地区と刷り込まれていく。
- ・「オクトパス」も大切だが、鮭男も皆さんの中に仲間入りするといいと思った。

4) 宮原委員長

- ・グループBとCは、「今広い土地がなく体を動かさない、」という差し迫った問題として出てきた企画である。グランドゴルフの場所は日替わりでも構わないので場所を見つけていただきたい。
- ・グループAは、椿と鮭など今傷んでいる「町の命」をポジティブな形でとり戻しましょう、と企画したものである。「椿を愛でる、鮭的な生活をする」ということで良いアイデアの流れができてきていると思う。

第6回推進会議以降のテーマと進め方

(1) 基本的な考え方

第6回推進会議では、事務局が作成した企画書骨子（案）に加筆修正を行い、企画書骨子をまとめ完成イメージを共有します。なお、グループ討議では、自分たちのグループが提案した企画だけでなく、別のグループが作成した企画についても意見交換を行います。

第7回推進会議では、第6回で作成した企画書を町長(副町長)に提出します。町は、この企画書を精査し、可能なものから住民主体で実行できるように支援を検討するとともに、町の予算などへの反映を検討します。また、本会議の後半部分では、新年度（第8回会議以降）の検討テーマと進め方を確認します。

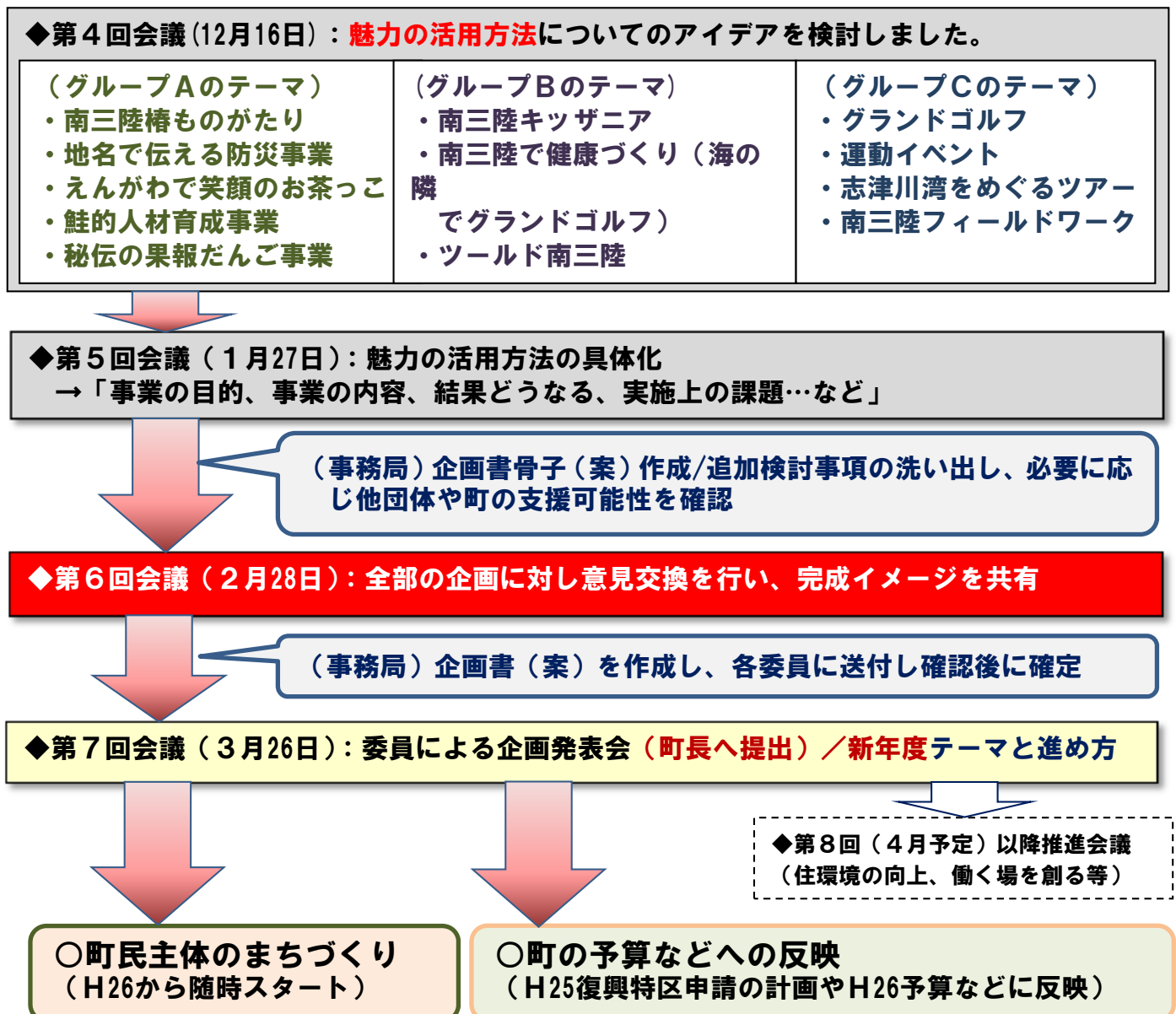
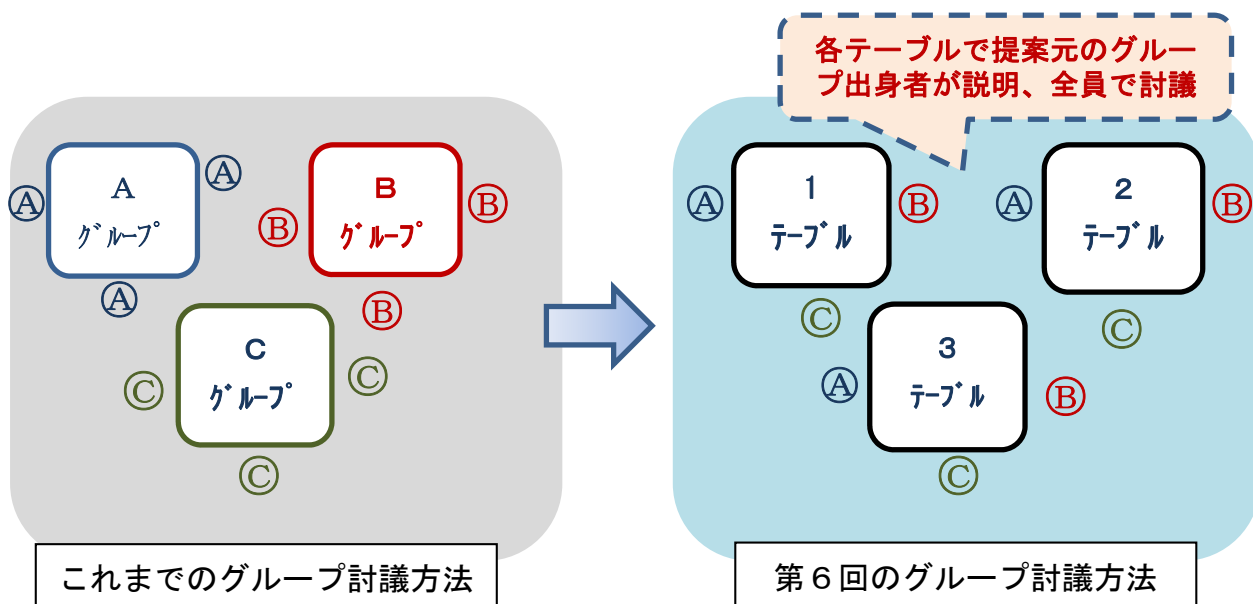


図 推進会議の検討テーマと町民主体のまちづくりへの展開イメージ

(3) 第6回推進会議の進め方

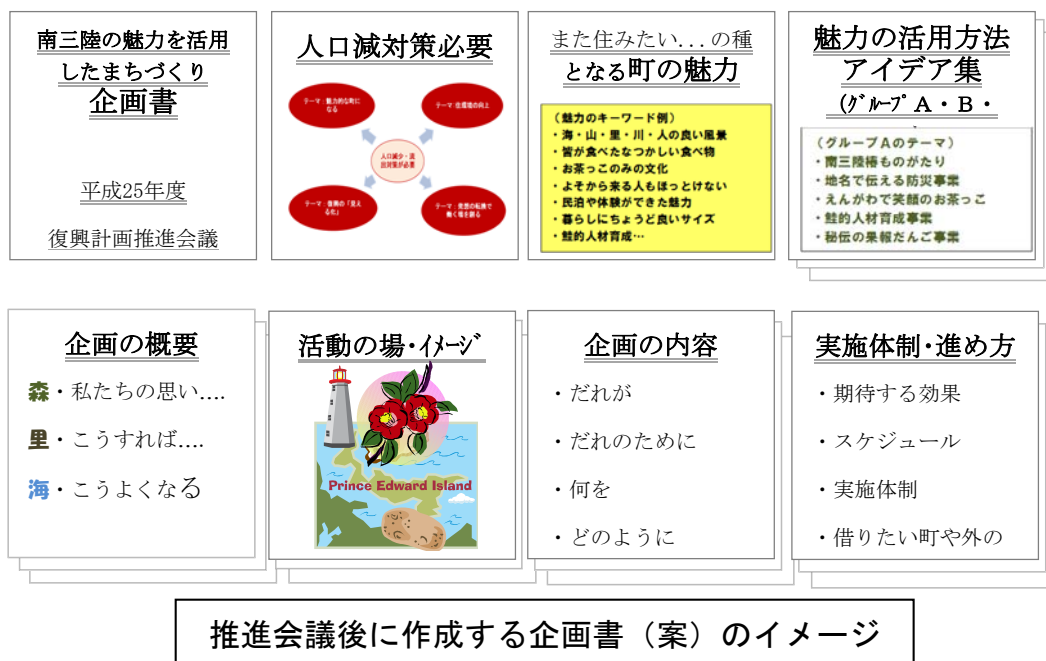
第6回推進会議では、これまでのA・B・Cグループ員が混成するテーブルに再編し、提案元のグループ委員が内容を説明し、全部の提案について意見交換を行い、その結果を各テーブルの記録係が発表し、企画書完成イメージを共有します。

また、会議の最後に、今年度の推進会議の進め方に対する意見と新年度となる第8回会議以降のテーマと進め方に関するアンケート票を配布します。



(4) 推進会議後の事務局による企画書（案）の作成と委員による確認

事務局が第1回～第4回の推進会議で検討した「人口減少や流出対策の必要性」、「町に人が戻ってくる、人が来るための魅力の掘り起し」、第5回と第6回で検討した魅力の活用方法の検討結果を受け、事務局が企画書（案）としてまとめます。この案を委員の皆さんに送付し確認していただいた上で、「企画書」として確定します。



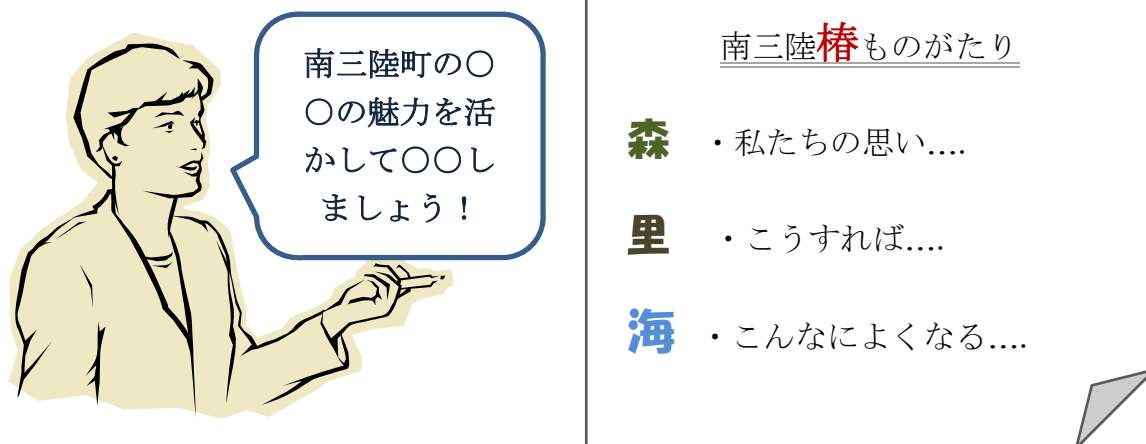
(5) 第7回推進会議の進め方

企画書としてとりまとめ、さらに、その企画書が活用されていくためには、第5回推進会議でテーマを絞り、その具体化を図った後も次の手順が必要と考えます。

1) 推進会議委員による企画発表会

第7回推進会議の前半部分では、第6回で作成した企画書とアイデア集を半年間の検討成果と位置付け、町長に提出します。この際、各グループは、事務局が作成したパネルを使って発表を行います。

企画書を受け取った町は、その内容を検討・精査し、住民主体の事業化の支援や施策立案への反映方法の検討を進めます。



第7回推進会議での企画発表会のイメージ

2) 新年度（4月以降）のテーマと進め方に関する意見交換

第7回推進会議の後半部分では、第6回推進会議で委員の皆さんに配布するアンケートをもとに、今年度の推進会議の進め方に対する意見と新年度となる第8回会議以降のテーマと進め方を検討・確認します。